

定期的に別室登校させることで、登校を習慣化し、「つながり」と「必要感」を自覚させた事例について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 3 年生で、小学校では全く登校できていない状態であった。中学校入学時は集団への適応ができず、担任からの電話連絡などで登校を促していた。家庭とも連絡をとり、担任が本人の状況などを伝え聞いたところ、家にずっといるわけではなく、外出などもしているため、時間をずらした登校を提案した。

具体的な取組

○担任による登校への働きかけ

1 年生の 3 学期から、担任が電話連絡をすることで、当該生徒と話すことができた。学校に登校して担任と会うことを提案したところ、当該生徒も意欲をみせ、実際に登校することにつながった。登校した際、週 1 回の定期的な別室登校を提案し、当該生徒も了承したため、継続的な登校の取組が始められた。

○面接による「つながり」の維持

週 1 回の別室登校を継続し、担任や校長と話をする機会をもつため、校長室での面接を始めた。家庭での過ごし方や学習にどのように取り組んでいるかなど、肯定的に受け止める会話を意識し、本人の意向を尊重するように配慮した。学校行事についても話題にして、当該生徒が学校とのつながりを感じられるように配慮した。

○組織的対応の周知・徹底

当該生徒の状況について、週 1 回の支援委員会を行い、共通理解を図り、学年を中心とした組織的な対応につなげた。登校した際、様々な教員が声かけなどをして支援した。また、SC と連携し、校内研修会等で、他者理解、言葉かけなどについて組織的に研修した。



○学校行事を通じた教室復帰

2 年生の 2 学期以降、学校行事を契機に、授業への参加を促した。卒業後の進路について考える契機となり、教室で授業に参加するなど、復帰のきっかけとなった。他の生徒の学習の様子などを見ることで安心感を得て、今後の学校生活への復帰に意欲をもてた。

成果

現在、3 年生に進級し、4 月から欠席なく教室復帰を果たした。進路面については、将来について考え、自己の希望を実現しようと取り組んでいる。自分で取組内容を決めるとともに、教室復帰に取り組んでおり、前向きに日頃の学校生活を送れている。

課題

支援委員会での共通理解を図り、組織的な対応を進めたが、今後も当該生徒の居場所の確保や継続的な見守りについて留意する。

個々に対応した登校支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、集団での活動が苦手なことで欠席が続いた。保護者と相談し、校内別室を勧め、登校支援員が迎えに行き、登校日数が増え、徐々に滞在時間も延びた。個別で学習指導を行い、教室で授業を受けられる回数や、一人で登校できる日数も増え、前向きな言動も見られるようになってきている。

具体的な取組

○ボランティア活動への参加

学期 1 回、生徒会主催でアルミ缶回収活動を行い、回収した缶をつぶして引き渡す活動をした。当該生徒も参加し、地域と連携を図る中で、自己肯定感の涵養を図った。



○支援会議の実施

週 1 回、情報共有の場を設け、具体的な支援方法の検討、計画の見直しを行った。S C の助言を基に当該生徒、保護者へ連絡し、状況によって関係機関との連携を図り、個に応じた支援を学校全体で行った。

○校内別室の環境整備

いつでも安心して登校できるように校内別室を開室した。

明るい環境で個に応じた学習や相談ができるよう、レイアウトなどを工夫した。S C との面談が気軽にできるよう、玄関の近くに相談室を配置した。

○オンライン授業の実施

オンライン授業を実施し、得意な教科から自分のペースで学習が進められるように配慮した。欠席中の生徒には、後日、教材も届け、授業内容が分かりやすくなるように興味・関心がある授業への参加や登校を促した。

成果

定期的に保護者との面談を行い、前年と比べ不登校生徒が 4 人減少した。S C や心理士の助言もあり、教室に復帰する生徒もいた。日々の連絡、連携の積み重ねが成果につながった。関係機関との連携もスムーズにできた。

課題

登校日数が 0 日の生徒への支援が課題である。関係機関と連携しながら、改善を図る。

校内での居場所づくり・教室内での絆づくりについて

不登校生徒の状況

当該生徒は、中学校 1 年生の半ばから体の不調を訴え、登校できなくなった。体調のよい日は別室登校や保健室登校、教育支援センターに通うなどして、登校できる日を増やした。3 年生に進級後、校内別室で学習するため、ほぼ毎日学校に登校し、進路についても前向きに取り組んでいる。

具体的な取組

○協働的な学習活動

全ての教科において班活動、話し合い活動に 4 人組活動を取り入れた。協働的な学びを深めることを目的とし、生徒同士のつながりを大切にしたい。自分の意見を安心して言える関係をつくり、共感的な人間関係の育成を目指した。

○別室運営

校内に不登校生徒が安心して通える居場所をつくるため、校内別室を設置した。2 校時～給食まで登校支援員が、2～5 校時まで教員が別室で対応し、2 人以上支援者がいるよう配慮した。個人学習や手芸などの作業の時間と、小グループでのカードゲームや体育の時間を設定した。

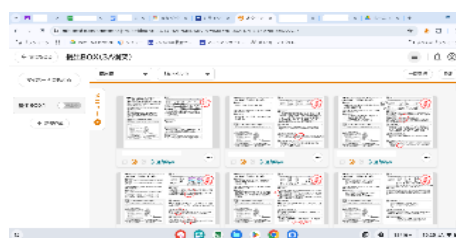
○SC との連携

隔週で生活指導部会といじめ不登校対策委員会を実施した。

生活指導部会、いじめ不登校対策委員会には、SC も同席し、専門的な視点からのアドバイスを受けられるようにした。

○オンラインによる授業配信

希望する生徒には、家庭から授業の様子が分かるようオンラインによる授業配信をした。また、オンラインで課題が提出できるようにした。



成果

毎日、校内別室を開室することにより、不登校生徒の登校日数が増えた（出席率 48%→82%）。別室生徒支援に運動を設定した日は、多くの不登校生徒が参加した。文化祭や生徒会のボランティア活動、修学旅行の行き先プレゼン大会など、自己決定の場を設定した。

課題

別室を利用する生徒が増えたことにより、部屋のスペースを確保する。また、教室と別室を行き来する生徒への教員の理解を深めるようにする。